

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和元年7月9日 VOL. 111

市民と医師とともに 第2回「平穏死を考えるつどい」

令和元年6月22日（土）青島南地区交流センターを会場に一般社団法人志太医師会（会長：錦野光浩氏）と藤枝市の共催で、「平穏死を考える」ための研修会と意見交換会を開催しました。これは3月9日に高洲地区交流センターで行った第1回に続く企画で、主役である市民の皆さんとともに「平穏死」や「看取り」について考えることを目的にしたものです。

第1部 報告「平穏な最期を考える」 報告者：三輪医院 三輪 誠 理事長



平穏な最期とは、医療は「苦痛なく無理の無い」、介護は「衣食足り、人権尊重され、入浴・排泄が適切な」、心理面では「安心できる。家族の存在が有ればなお良い」と整理し、「人は医療のみでは生きられない」「医療よりも介護（薬より食事）」「しかし、医療なき介護も不安」「介護なき医療は不便」とまとめ、医療と介護の共同作業と自己決定の必要性を説きました。そして**市民の皆さんがやるべきことは「意思決定と表明」として「①かかりつけ医を持ち、知識を深めること ②自分の意思を家族と話し合うこと」とまとめました。**

参加者からは「在宅で看取ることは大変でできないと思っていたが、自分に固定観念があったことに気づいた」「日ごろから自分がどうしたいか考えておくことが必要だと思った」「人生会議の必要性を感じた」等の感想がありました。

第2部 意見交換会「皆さんが思い描く平穏死を語ろう・聞こう・話し会おう」

参加市民50人が7つのグループに分かれ、各グループに志太医師会協力医師（木佐森優美氏・杉浦正司氏・菅ヶ谷純弘氏・高橋博氏・錦野光浩氏・三輪誠氏）と藤枝市立総合病院協力医師（石神直之氏）が入り、意見交換会の進行や医師の立場でのアドバイスなどを行いました。



意見交換会：参加者からの感想(抜粋)

- 先生と直接お話ができて、専門的なことも聞けてとても良かった。
- かかりつけ医の重要性がわかりました。
- 平穏死は自宅ばかりでなく、介護施設等でもあると思いました。
- 町内会や老人会などの仕事に協力することや、地域を大切にしたい。
- 子どもとの会話をもち、どのような最期を迎えたいか明らかにしたい。
- 日ごろから、自分の最期の意思を家族や近隣に伝え、地域とのコミュニケーションをとることが大切だと思う。
- 今回のような研修会を多く企画してほしい。

ま と め

志太医師会在宅医療サポートセンター杉浦正司センター長から「本人や家族が、本音で医療従事者や介護従事者と話し合える関係をつくっていききたい」とまとめがありました。



第3回 平穏死を考えるつどいのお知らせ

と き：令和元年8月24日（土）
午後2時～4時

会 場：稲葉地区交流センター

申込先：志太医師会在宅医療サポートセンター

電話 054-625-7072 / fax054-646-1176

メール zaitaku.shida@gmail.com